

事業所名

児童通所支援センターまなふる

支援プログラム

作成日

令和7年

3月

14日

法人（事業所）理念	すべては子どもたちのために理念とし、「住民誰もが住みなれた地域で安心して暮らせる福祉のまちづくり」の実現に向けて取り組んでいます。		
支援方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ものごとの連続性や関連性、子ども達の自主性等を重視した支援を行います。</li> <li>・「どうして？」と疑問に思ったことを解決する問題解決能力が身につくよう支援します。</li> <li>・自己決定を促し、成功体験へと導き自己肯定感や自己有用感の構築に向け支援します。</li> </ul>		
営業時間	8時30分から	17時30分まで	送迎実施の有無 あり なし
支 援 内 容			
本人支援	健康・生活	<ul style="list-style-type: none"> <li>・健康状態の把握(来所持の検温、日々の様子観察)を図ります。</li> <li>・活動場所の構造化を図り、なにがどこにあるかなどの文字や絵を掲示し視覚支援を実施します。</li> <li>・身辺処理(靴の片付け、荷物の整理、提出物の管理など)を自ら行動できるように、個々に合わせた支援を実施し、習慣化を図ります。</li> </ul>	
	運動・感覚	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サーキット運動、ゲーム感覚で楽しむことができる運動療育、公園での活動、バランス運動等を通し良い姿勢の保持や動作の基本的技能の向上を図ります。</li> <li>・粘土遊びや、畑作業等を通して保育する感覚を活用します。</li> <li>・創作活動を中心に、折り紙やはさみ、ブロック等を使用し指先の機能向上を図ります。</li> </ul>	
	認知・行動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・タイムタイマーを用いて、活動の切り替えを促します。</li> <li>・数量・物の大小・色の識別といった発達段階に応じた物の概念獲得を図ります。</li> <li>・集団活動における活動を通し、適切な行動形成、認知の偏りへの配慮を図ります。</li> </ul>	
	言語 コミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> <li>・はじまりの会で挨拶をすることや、帰りの会では活動の振り返りを言語表出することや、他者の意見を受容できるよう支援します。</li> <li>・適切なコミュニケーション能力の獲得や社会生活における他者とのよりよい関係性の向上を図ります。</li> <li>・問題解決能力の獲得や感情コントロールが身につくよう支援します。</li> </ul>	
	人間関係 社会性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域交流を通し、さまざまな年齢層の方と交流する場を設けます。</li> <li>・集団活動を通してルールや順番を守ることや、協調した関わりを持てるよう支援します。</li> <li>・お店や社会に目を向け、自立を見据えた社会生活の向上を目指します。</li> </ul>	
家族支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要に応じて面談を実施し不安や困りごとへの相談援助を行います。</li> <li>・連絡ノートを活用や、送迎時の会話により情報共有を図ります。</li> <li>・子育て上の課題の聞き取りを実施し、必要な助言を行います。</li> </ul>	移行支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校や医療、福祉施設といった関連施設と情報共有を図ります。</li> <li>・必要に応じて会議を実施し、包括的に支援を行える環境を作りを実施します。</li> </ul>
地域支援・地域連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療機関、保健所、児童相談所等の専門機関と連携を図ります。</li> <li>・教育機関の関係者と連携を図ります。</li> <li>・個別のケース会議へ出席します。</li> </ul>	職員の質の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外部研修を受講します。</li> <li>・法人内研修を受講します。</li> <li>・支援に関する意見交換を実施します。</li> </ul>
主な行事等	季節の移り変わりを感じられるように、花見、夏祭り、ハロウィン、クリスマス会、畑作業といった各季節に沿ったイベントを開催します。単一の事業所のみで開催するのではなく、地域交流を兼ねて実施することで交流の場としても活用しています。		

